

2022年度(2023年3月期)決算 主な質問と回答

- Q. 受注高が過去最高を更新したが、けん引した市場やエリアは。
- A. 社会のデジタル化や脱炭素化を背景にエレクトロニクス・自動車市場がけん引。特にEV・自動運転関連の受注が増加した。エリアでは主に日本、北米、欧州が拡大。中国も堅調に推移した。
- Q. 営業利益が2022年10月発表の修正予想を上回った理由は。製品値上げの効果は。
- A. 調達難の改善や在庫の積み増しなどにより部品を確保することができ、売上高が予想を上回ったこと、および販管費を想定よりも抑えることができたため。なお、受注残高が積み上がっていたため製品値上げによる効果は軽微であった。
- Q. 2023年度予想について、受注高が前年度比で減少する理由は。
- A. 2022年度は製品納期長期化に伴う前倒し受注が約20億円発生。また為替変動による影響が約32億円あった。2023年度はこれらの影響がなくなるが、需要のピークアウトの兆しはなく、先端技術分野(IoT、自動車の電動化・自動運転)を中心に需要は高水準を維持すると見る。
- Q. 受注残高が約270億円と豊富にあるなか、2023年度の営業利益予想は保守的ではないか。
- A. 調達状況は改善しているがいまだ不安定であり、調達・生産の正常化には時間がかかると見ている。また、部材価格や電気代の上昇を見込んでいる。
- Q. 収益性改善の取り組みは。
- A. 部材価格の高騰が継続しており、2022年度に実施した製品値上げではカバーできないと見ている。今年度再値上げを検討し、収益性改善につなげていく。また、サービス事業については売上拡大に向けた人員増や受託試験サービスにおける電気代の高騰などの影響を受けるが、サービス価格の改定など早期に手を打っていく考え。

本資料は、決算に関する主な質疑応答の要旨を記載したものです。

本資料に含まれる将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに当社が計画・予測したものであり、実際の業績などは今後の様々な条件・要素により異なる場合があります。